



令和元年の浜松まつり=浜松市南区、全日写連・高山申二さん撮影

# 一字 一筆

静岡の今

## 令和の始まり 肌で

「休日」は暮らしのアクショントだ。文章に例えれば、1日の休みが「」なら連休は「。」、「」、「」などになると、その前後では全く「別の文章」になるだろう。今年の10連休が、自分

の暮らしのリズムにどのような変化をもたらしたか、整理してみるのも良い。この10連休、筆者のように「特になし」で過ごしたものは句読点の付けようもないが、この間に新聞やテレビで報道されたイベントや人の動きなどを見ると、人々の「令和初」に対するこだわりの強さが際立つ。

この10連休、筆者のように「特になし」で過ごしたものは句読点の付けようもないが、この間に新聞やテレビで報道されたイベントや人の動きなどを見ると、人々の「令和初」に対するこだわりの強さが際立つ。

今年は浜松市が出展した川義元の生誕500年を記念した「今川復権まつり」(3~6日)。「家康の町」と言われる静岡市で、「義元」を見直す時期があるとすれば生誕500年に当たる今年はチャンス。それがちょうど「令和元年」と重なったのは、上洛途上で信長に討たれ「悲運の戦国武将」と言われる義元公の幸運という他ない。

天皇陛下の即位を祝う一般参賀(4日)に詰めかけた14万人を超える人たちの気持ちも、同じではないか。初夏の強い日差しの中で、老人も若者も、外国人までも長時間並んで両陛下を待つたのは、令和時代のスタートを肌で感じたからだからだろう。

「特になし」の10連休だったが、ほとんど毎日やつたことが、一つだけある。自家竹林の「たけのこ掘り」である。

令和初の「旬」との出会いだつた。

(前静岡県監査委員・富永久雄)

県内最大の人出となつた「浜松まつり」(3~5日)の名物は廻揚げ合戦。今年は浜松市が開催した「令和」の大廻に注目が集まつた。廻揚げは初子の誕生日を祝う習慣がルーツと言われるが、見上げる人たちの多くはスタートしたばかりの新しい時代を初子のイメージにダブらせていた。

静岡市では戦国武将・今川義元の生誕500年を記念した「今川復権まつり」(3~6日)。「家康の町」とと言われる静岡市で、「義元」を見直す時期があるとすれば生誕500年に当たる今年はチャンス。それがちょうど「令和元年」と重なったのは、上洛途上で信長に討たれ「悲運の戦国武将」と言われる義元公の幸運といふ他ない。

天皇陛下の即位を祝う一般参賀(4日)に詰めかけた14万人を超える人たちの気持ちも、同じではないか。初夏の強い日差しの中で、老人も若者も、外国人までも長時間並んで両陛下を待つたのは、令和時代のスタートを肌で感じたからだろう。

「特になし」の10連休だったが、ほとんど毎日やつたことが、一つだけある。自家竹林の「たけのこ掘り」である。

令和初の「旬」との出会いだつた。